

大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。



2026年 5月の中ごろ こまばようちえん

みなさま、こんにちは！新緑の美しい季節です。幼稚園の園庭も土と木と花と虫たちと、そしてこどもたちでにぎやかです。

さて今年度初めての「絵本ブックトーク：けやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ」をお届けします。私、理事長の須藤麻江と、「本の部屋」担当の近藤千春先生とで、さまざまな絵本を紹介していきます。小さい人たちも私たち大人も、いっしょに絵本の世界、物語の世界を楽しみましょう。

では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

* * * 【本のへや】から「こんにちは♪」（自己紹介）* * *



こんにちは。【駒場幼稚園・本のへや】の近藤千春です。保護者の方たちのお力を借りて【移動図書館】のプロデュースをさせていただいてます。

元幼稚園教諭で、今は児童文化実践講師としていろんな場所へ出かけたり(専門は絵本・語り・遊びと発達)、子育て支援施設の保育士・子育て相談スタッフをしています。プライベートでは、長男の子ども…5歳の孫と遊ぶのがなにより楽しいばあばです。

さて。保護者のみなさんは今、目の前の我が子との毎日を全力でお過ごしのことと思います。たいへんな時も、不安な時も、余裕のない時もあるかもしれませんね。夜、我が子の可愛い寝顔を見つめながら「今日はごめんね」なんてつぶやく時もあることでしょう。まずは、保護者のみなさんが自分らしくいられる安らかなひとときを、1日のどこかで手に入れられますように。

自分の子育てをふりかえると、子どもの中に入り続ける旅のようなものでした。特に、絵本や物語・遊び・自然体験を通してお互いを感じ合ったり、おもしろがったり、ちょっと離れて我が子を観察できたりしたことは、それからの親子関係をしなやかでたしかなものにしていく時間の積み重ねだったなあと思います(もちろん、反省したこともたくさん！)。

絵本やおはなしのある暮らしはとびきり素敵。“今だからこそ親子で共有できるよろこび”があります。この配信が、ささやかでもお役に立てれば幸せです。

どうぞよろしくお願いたします。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



● 『おなかのすくさんぽ』

片山健・作 福音館書店 1992年/990円

表紙の男の子と動物たちが、地面に這いつくばるようにして進んでいる絵はインパクト大です。ある日、白いシャツを着た男の子が歩いていたら、動物たちが水たまりで遊んでいました。「い、れ、て」というと、みんな「うー」なんて言って水をばちゃばちゃいわせるばかり。それならと、男の子もばちゃばちゃ、仲間入りしてしまいます。このあとの男の子と動物たちの生命を躍動させるような遊びっぷりが素晴らしい。ところが……、くまが「きみはおいしそうだね」と一回ぺろりとなめました。さあ、どうなるのかしら。わいわいドキドキの絵本です。(須藤)



● 『たけのこ のびのーび』

すとうあさえ 作かじりみな子・絵 (ほるぷ出版) 2026年/1188円

二十四節気絵本シリーズ「立夏」の巻です。皮付きのたけのこがお店に並び、
時季は短いので、ぜびこどもたちと皮付きたけのこを出会わせていただきたい
と思って創りました。竹林にぴょこっと顔を出したたけのこちゃん。ちょうど真
上にいたのねずみくんのお尻を突いてしまいます。のねずみくんは、びっくり。

でも二人はそれから仲良くなって、「ずっと、友だち」になります。たけのこ
ちゃんがぐんぐん伸びていき、雨のシャワーを浴びて、さらにぐんぐんぐんぐ
ん。久しぶりにたけのこちゃんに会いに行ったのねずみくんは、あんまり伸びて
いるので、もうびっくり。この絵本を書くために、昨年たけのこほりに行きました。
なかなかうまく掘れませんでした。竹林の匂い、通る風の音、笹の揺れる
音に癒されました。(須藤)



● 『あかいくるまの ついたはこ』

モウドとミスカ・ピーターシャムのえほん わたなべ しげお 訳(童話館出版)
1995年/1650円

「あかいくるまの ついたはこ」が庭の木の下に置いてありました。「なんだろ
な？」あけっぱなしの木戸を通して、この家の動物たちが次々と箱の中をのぞき
ます。「やさしい めうし」「ひとなつっこい こうま」「はずかしがりやの う
さぎ」「のどをならす ねこ」さて、次にのぞく動物はだれでしょう？そして箱
の中にいたのはだれでしょう？

赤ちゃんと遊ばずに「とてもとてもしょんぼり」した動物たちと、つまらなさ
そうな赤ちゃんをながめて、最後はちゃんとしてあげられるお母さんがほ
んとうに素敵。人も動物もみんな、祝福されてこの世に迎えられるんだよなあ
と、しみじみ。白を基調に、抑えられた色調の絵はセンスと品があり、気持ちが

やすらぎます。あたたかみがあり洗練された文章は動物たちの鳴き声もふんだんに楽しめて、穏やかな読後感に包まれることでしょう。(近藤)



● 『あいちゃんのワンピース』

こみや ゆう 作 宮野聡子 絵(講談社) 2011年/1320円 (重版未定)

背が伸びてお気に入りのワンピースが着られなくなった、あいちゃん。ママはお裁縫箱を取り出しました(あいちゃんはママのお裁縫箱が大好き)。ママは、そのワンピースをリメイクして、うさぎのぬいぐるみ・ミミちゃんのワンピースに仕立て直してくれるのです。ミミちゃんはいちちゃんのたいせつな友だち。あいちゃんは大張り切りで自分のできるお手伝いをします。はたして、できあがったワンピースのなんて可愛らしいこと！これはぜひとも、この絵本で目撃してくださいね。

ミシンかけを含むリメイクの工程が、手にとるような展開で大人もワクワク。ましてや子どもは言わずもがなです♪さあさあ、あいちゃんと一緒に次々とお裁縫箱の引き出しをあけて…どれを選ぶ？女の子も男の子も夢中になること請け合いですよ。

表紙から裏表紙までの全部に、やさしい細やかさが行き届いています。(近藤)

② 年中・年長組のみなさんに。



● 『アリィはおとどけやさん』

大久保雨咲 作 吉田尚令 絵 (ひさかたチャイルド)1430円 2021年
アリィは荷物をお届けするのが仕事です。毎日忙しくしています。ところが、隣に越してきたいもむしのイモムーが、アリィと遊びたくて、「あそぼうよ！」と誘いにきます。アリィは「おしごとだから、またこんどね」とその度に断ります。ある日、アリィは、自分がいつも忙しくしてぼーっとすることがなかったことに気が付きます。そしてイモムーに「いっしょにあそぼう」と言いにいきます。イモムーは「ちょうちょになるために、これからぐっすりたっぷりねむるんだ。ねむっちゃうまえにあそべてよかった」と喜びます。私も、本当に良かったと思いました。裏表紙のちょうちょのかわいいこと！（須藤）



●『おんなじ だあれ?』

しもかわゆみ 作 (あかね書房) 2020年/1430円

仕掛け絵本です。小さな穴から手や鼻や口や耳などがすこーしだけ見えます。本当にすこーしだけ。意外に難しいです。難しいからこそ、ページを開いて現れた動物たちに、びっくりしたり、笑ったり。私が一番「ひゃあ」って思ったのは「あれれ これはだれでしょう？」場面です。子どもたちは、わかるかな？最後の「だれかとおんなじ、うれしいね」の一言に共感しました！（須藤）



●『とん ことり』

筒井頼子 作 林 明子 絵 (福音館書店こどものとも傑作集)1989年/1320円

ある日。かなえは、山の見える町に引っ越してきました。両親はせっせと荷ほどきをしています。すると、「とん ことり」…玄関の郵便受けで小さな物音がしました。届けられていたのは、小さなスミシの花束。次の日はタンポポ、また次の日は手紙が届けられます。「とん ことり」という音を合図に。なかなか姿を見せない謎のゆうびんやさんは、いったい誰なのでしょう。

ヒントは絵本の中に。3・15・21 ページは特にお見逃しなく♪(あ、ちなみに、同じ作者による『はじめてのおつかい/福音館書店』に登場する黒メガネのおじさんも実はあのページとあのページに…！絵を手がける林明子さんの真骨頂です)

ああ、「ともだち」ってほんとに素敵。いっしょに遊ぶのってほんとにうれしい。求めあう二人の女の子の気持ちが愛おしくてなりません。野の花いっぱいの原っぱ道を三輪車で走るふたりの女の子のシーンはもう最高すぎて、わたしはこのページだけでお茶が3杯飲めます。見返すたびに思わずほほえんでしまう裏表紙の絵まで、じっくりとお楽しみくださいね。(近藤)



● 『あなたが うまれた せかい』

ウィリアム・ホール 文 ロジャー・デュボアザン 絵 ほしかわ なつこ 訳
(童話館出版)2008年/1430円

“子どもから大人までそれぞれの人が、好きに受けとって楽しむもの”というのが、わたしの絵本観です。けれど絵本は時に、大人には深々とたいせつなことを気づかせ、子どもにはたくさんの“よきもの”を手渡してくれます。

まるごと全部が生きることへの祝福に包まれたような、この絵本。1日の始まりから終わりまで…すぐそばにある自然・乗り物・働く人・建物…晴れの日…雨の日…風の日…に生きるわたしたちの世界が、光をまといながら静かに立ち上がってくるようです。

この世界は素晴らしい！子どもとの暮らしも、自分自身の人生も、まずはここからスタートできるとしたら、どんなに素敵でしょうね。でも、そうではない現実が横たわっていることもわたしたち大人はよく知っている。であればこそ、大

人はますます、この世界に生まれてきてくれた子どもたちへ、それぞれのやり方で伝える尊い仕事があるのだと思います。「あなたがうまれた せかいは すてきなところですよ」このシンプルで美しい絵本のように。(近藤)

③ 大人のみなさんに。



『ぼくのすみっこ』

ジョオ・作 かみやにじ・訳 (ほるぷ出版) 1650 円/2025 年

韓国の作家でこの作品がデビュー作だそうです。長細い絵本で、絵本のノド(閉じめ)を角っこに見立てています。登場するのはカラスの子。カラスの子は何にもない部屋の隅っこに、自分の好きなものを運んできます。ベッドや本棚、本、スタンド……。すみっこがだんだんカラス仕様になっていきます。その過程が興味深いです。そして「なにかたりない」と感じながら、カラスの子は一体どこに行き着くのでしょうか。ほとんど文字のない絵本。ゆっくり静かにページをめくってみてください。ちなみに、ジョオさんは、カラスの子が登場する作品を作り続けているそうです。(須藤)



● 『ミツツボアリをもとめて アボリジニ家族との旅』
今森 光彦 文と写真 (偕成社)2024 年/1760 円

いやぁもう、驚いたのなんのって。「ミツツボアリ」の神秘的すぎるその生態に度肝を抜かれました。あらためて、この世界にはまだまだ知らないことがいっぱいある！！

ミツツボアリが生息するのはオーストラリアの砂漠地帯。マルガの木とカイガラムシから蜜をもらい、巣に持ち帰るアリです。さて、ミツツボアリは集めた蜜をどうやって保管すると思いますか？その驚愕の写真はまさに必見の価値“アリ”（笑）。

写真家の今森光彦さんは、「アボリジニ」と呼ばれるオーストラリア先住民家族の旅に同行することにしました。その家族は数日かけて赤茶けた荒野を歩き、ミツツボアリをとりにいくというのです。

旅を伝える写真と文章の一つひとつが知的好奇心をくすぐり、ワクワクさせてくれます。石ころだらけの荒野に適応して生きぬく、虫・トカゲ(1メートル超え！?)ワラビー・花々など。旅の途中、アボリジニ家族のおなかを満たすのはコウモリガの幼虫！←はい、見事なイモムシでございます。食された今森さんすごい…。

遠い祖先の食の軌跡を連綿と受け継ぎ、大自然と一体化していのちをつないでいるアボリジニ。物質文明にぬくぬくと暮らすわたしにとって、ガツンと一発どころじゃない衝撃と魅力ある1冊でした。(近藤)



●『わたしの やま』

フランソワ・オビノ 作 ジェローム・ペラ 絵 谷川俊太郎 訳 (世界文化社)
2020年/1540円

主人公である羊飼いの男と母オオカミの二人。それぞれが愛する家族と住んでいるのは、二人がそれぞれ「わたしのやま」と信じてやまない自然豊かな山中の、それぞれの場所です。…ん？“二人”と“それぞれ”がなんだかややこしい。つまりは、この“二人”“それぞれ”の立場と事情が、この絵本の一番の肝になっています。

読み終わってまず心に浮かんだのは“他者の靴をはいてみる”…他者や相手の立場や状況、感情を理解しようとするエンパシーの概念でした。同調のシンパシーとは違うものですね。その考えを自分の中にあれこれ思い描いてみた時、このおはなしはわたし自身の物語になりました。

ところで、この絵本の構成にはビックリです。テキスト(文章)はまったく同じ(字体は違う)なのに、主人公二人がそれぞれの視点で語る話になっているから絵はまったく違う。左から読み始めた文章はちょうど真ん中で終わり…と、これ以上書くと完全ネタバレになっちゃいますね。どうか楽しんでもらえますように。(近藤)

• 絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに②年中・年長組のみなさんに③大人のみなさんに

• 「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刊される可能性もあります。

• 紹介した絵本は藤井チズ子前理事長からいただいた寄附金で購入して本の部屋にまとめて置いてあります。背表紙の藤色の丸シールが目印です。保護者の方はこれらの本を、本の部屋にある「貸し出しノート」に記入した上で、自由に借りることができます。ぜひ、ご利用ください。